

特別号に寄せて

別府大学地域社会研究センター
所長 長尾 秀吉

2022年3月末に、地域社会研究センターのメンバーである篠藤明德先生がご退職されます。長年にわたり別府大学とセンターを支えて下さった先生の最後のご寄稿にあたり、特別号を発行することとなりました。

篠藤先生は、1998年4月に別府大学短期大学部生活文化科講師として赴任され、地域社会研究センターのメンバーになりました。2000年4月に別府大学文学部人間関係学科教授となり、同学科と地域社会研究センターの教育・研究活動に尽力されました。また、初代センター所長である秋田清先生の後任として、2008年4月から2021年3月まで二代目の地域社会研究センター所長を務められました。2019年3月に定年退職された後、再び教授として任用され、今日まで大学内外で多大なご貢献をされました。

地域社会研究センターでは、毎年、機関誌『地域社会研究』を編集・発行し、また市民活動のリーダーをまじえた座談会や聞き取り調査など活動を行っています。先生は、センター創設当初から、センター活動においてその中心的な役割を果たしてこられました。

別府大学で歩んでこられた先生の足跡は、『地域社会研究』に現れています。論文、報告文、訳文、インタビューや座談会記録などを含め、23年間（1～33号）で49本を執筆されています。その内容は、「学生教育」4本、「地域社会研究センター」4本、「別府大学」6本、「市民討議会」32本（訳文4本含）、「過疎地域」2本、「その他（教育座談会）」1本となっています。

この他に、『地域社会研究』には、先生の学外の仲間の方々が執筆して下さった「別府市の福祉のまちづくり」に関する寄稿が数本あります。ご

自身が執筆されたもの、仲間の方々が執筆されたものを見ていきますと、先生は「別府大学の教育」、「市民討議会」、「別府の福祉のまちづくり」に強い関心を寄せられてきたことがわかります。

先生は、多くの仲間と『地域社会研究』を作ってこられました。精力的に国内外の多くの研究者や市民活動実践者と交われ、事務局の仕事やイベントの雑用も進んで引きうけていました。実践に身を投じて苦楽をともにされた仲間だからこそ、多くの方が快く先生からの執筆依頼を引き受けられたのではないかと思います。その意味で、『地域社会研究』は、先生の仲間との共同記録となっています。

そして、もう一つ『地域社会研究』に現れているのは、先生の「人の想いを大切にする姿勢」です。先年、ご逝去された梶原先生の追悼座談会の記録文、新学長へのインタビュー記録文、市民討議会の過程で大切にされていたこと、センターのメンバーを気遣う編集後記などに現れています。また、一般の人たちに読んでもらえるようにと、あえて学術的文章で執筆せず、エッセーの形式を大切にされていました。

『地域社会研究』を読んだ国内外の研究機関の研究者、国の政策立案者、著名人、地域づくり実践者、マスコミ、地域活動に関心を持つ学生たちが篠藤研究室を来訪していました。先生が執筆し、編んできた『地域社会研究』は、多くの人に学びの動機を与えたのでしょう。

この特別号は、篠藤先生が取り組んでこられた各テーマの集大成というべき内容になっています。この特別号を多くの人に手にしていただき、ともに別府大学、そして社会の未来について考えることができれば、嬉しく思います。